

# U.S. Indicators

## 米国 強い労働需要を映じて量質な雇用情勢の改善(15年12月雇用統計)

発表日:2016年1月8日(金)

～FRBは1月FOMCで様子見し、3月に利上げを決定する公算～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

### 米国雇用動向 (The Employment Situation)

	失業率	非農業部門雇用者数							時間当たり賃金		労働時間	労働投入量		
		前月差	製造業	建設業	サービス関連業			前月比	前年比	前月比		年率※		
			前月差	前月差	小売業	サービス	政府							
四半期	14.1Q	6.6	193	15	42	133	▲3	117	▲1	0.6	2.1	33.6	0.6	2.3
	14.2Q	6.2	284	15	20	245	31	166	10	0.5	2.0	33.7	0.9	3.5
	14.3Q	6.1	237	12	23	196	18	139	8	0.5	2.1	33.7	0.6	2.4
	14.4Q	5.7	324	29	28	266	29	178	7	0.4	2.0	33.8	1.0	4.1
	15.1Q	5.5	195	9	20	178	30	123	2	0.7	2.1	33.7	0.6	2.2
	15.2Q	5.4	231	2	14	227	27	161	11	0.5	2.2	33.6	0.3	1.0
	15.3Q	5.1	174	▲5	11	180	14	135	12	0.6	2.3	33.7	0.7	2.7
	15.4Q	5.0	284	4	43	244	20	180	8	0.6	2.4	33.7	0.5	2.1
月次	1505	5.5	260	6	12	262	33	188	8	0.2	2.3	33.6	0.2	0.6
	1506	5.3	245	1	1	248	36	148	27	0.0	2.0	33.7	0.2	1.0
	1507	5.3	223	11	5	216	29	126	28	0.2	2.2	33.7	0.5	2.0
	1508	5.1	153	▲19	8	174	4	116	28	0.4	2.2	33.7	0.1	2.9
	1509	5.1	145	▲8	19	149	10	162	▲20	0.1	2.3	33.6	▲0.2	2.7
	1510	5.0	307	3	35	273	25	230	▲5	0.3	2.5	33.7	0.6	2.2
	1511	5.0	252	2	48	213	32	123	12	0.2	2.3	33.7	▲0.1	1.6
	1512	5.0	292	8	45	247	4	188	17	▲0.0	2.5	33.7	0.3	2.1

**非農業部門雇用者数が前月差+292千人、民間が同+275千人ととも予想を上ぶれ**

15年12月の非農業部門雇用者数(季節調整済み)は、前月差+292千人(前月同+252千人)と加速し、市場予想を上回ったうえ(市場予想中央値前月差+200千人、当社予想同+198千人)、10、11月合計で50千人上方修正された。ドル高、新興国経済減速による米国経済への悪影響が限定的なものにとどまっており、堅調な雇用の増加ペースが維持されている。3月の追加利上げに向けて一歩前進した。政府部門に加えて、民間部門の雇用者数が前月差+275千人(前月同+240千人)と加速し堅調なペースを維持した。民間では、暖冬による販売不振で衣料関連が大幅に減少した小売業のほか、公益、卸売業、専門・技術サービス、教育サービス、レジャー関連が鈍化した。一方、建設業や金融は小幅鈍化したものの高い伸びを維持したほか、製造業、運輸・倉庫、ヘルスケアが加速した。また、情報、派遣業が増加に転じた。さらに、鉱業が減少幅を縮小した。

**非農業部門雇用者数は3ヵ月移動平均で前月差+284千人、6ヵ月移動平均では同+229千人と加速し、安定的なペースを維持**

非農業部門雇用者数の基調を示す3ヵ月移動平均(10、11、12月)は、10、11月合計で50千人上方修正されたこともあり、前月差+284千人(前月同+235千人)と加速した。また、民間部門雇用者数は10、11月合計で51千人上方修正されたことも加わり同+276千人(前月同+239千人)と加速した。ドル高、新興国経済減速、原油価格下落等の影響によって、緩やかな経済成長が続く中で、雇用の拡大ペースは短期的に強まった。

より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門雇用者数(15年7月-15年12月)が前月差+229千人(前月同+221千人)と、総じて雇用は安定的な増加ペースを維持していると判断される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**失業率(U3、U6)が  
ほぼ変わらず、参加  
率、就業率の上昇な  
ど雇用情勢の改善継  
続**

12月の失業率(U3)は、5.01%(前月5.04%)とほぼ変わらずとなり、08年4月(4.967%)以来の低水準を維持した(市場予想中央値5.0%、当社予想5.0%)。広義の失業率(U6)は9.9%(前月9.9%)と変わらずだったが、引き続き高い水準。労働参加率は、12月に62.65%(前月62.51%)と、職探しを諦めた人等の労働市場からの退出等を背景に、77年10月以来の低い水準に低下したままであるが、前月から上昇した。リーマンショック以降、特に働き盛りの25歳から54歳の世代の労働参加率は大幅に低下しているが、経済成長が持続すれば求職を再開する可能性が高い。就業率は、59.51%(前月59.36%)と依然低い水準ながら、正規雇用が大幅に増加する形で上昇した。また、労働需給の改善を示す自発的失業率は10.39%(前月10.10%)と上昇した。一方で、失業者全体に占める長期失業者の割合は26.3%(前月25.7%)と前月から上昇し、前回ピークの水準を依然上回っている。

以上のように、質の面で依然改善余地が残されているように、失業率(U3)が前回5.0%だったときほど雇用情勢は健全ではないが、改善を続けている。

**賃金は前年比+2.5%  
と、緩やかな上昇にと  
どまっている**

このような中、労働需給の影響を受ける平均時給は、月次での変動の大きい前月比で▲0.0%と前月の+0.2%から減速したため(市場予想中央値+0.2%、当社予想+0.2%)、前年比では+2.5%(前月+2.3%)と小幅な加速にとどまった(市場予想中央値+2.7%、当社予想+2.7%)。

所得環境を示す統計では、賃金が前月比▲0.04%と低下した一方で、労働投入量が前月比+0.3%と増加に転じたため、12月の雇用者所得の増加ペースは加速したとみられる。所得が増加基調を維持していることに加えて、ガソリン価格の下落や借入環境の改善が続いたこともあり、12月の個人消費は拡大基調を維持したと予想される。

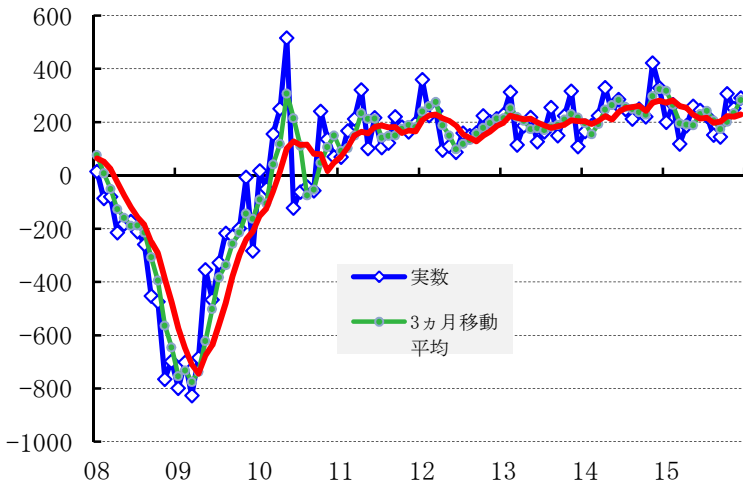
**FRBは1月のFOMC  
では様子見、3月の  
FOMCで追加利上げ  
を決定へ**

12月の雇用統計では、賃金の上昇ペースが鈍化したが、雇用者数が堅調な増加基調を維持したほか、U3、U6(広義)の失業率が横ばい、参加率、就業率が上昇するなど、強い労働需要を映じて、量と質の両面での改善が継続していることが確認された。

金融政策に関して、前述のような雇用情勢にもかかわらず、FRBは世界経済の一段の減速のほか、さらに進んだドル高・原油安等の米国経済成長への影響の見極め、世界的な金融市場の変動幅の拡大など先行き不透明感が強まっていることから、1月26、27日のFOMCで政策金利を据え置くと予想される。

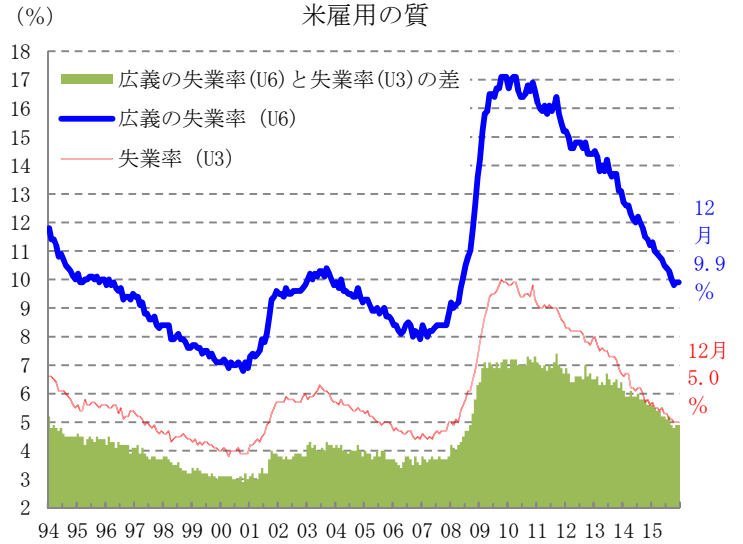
このような不透明感の高まりの背景に、中国経済への不安があるが、これは容易に解消されないだろう。しかし、米国経済は雇用・所得の増加による個人消費など国内需要主導での景気拡大持続が確認され続けると予想される。また、金融市場は先進国の景気拡大持続や新興国での景気対策などを受け徐々に落ち着きを取り戻すとみられる。このような経済・金融情勢のもと、FRBは3月のFOMCで追加利上げを決定すると見込まれる。

(千人) (図表) 米国非農業部門雇用者数 (前月差)



(出所) 米労働省データより

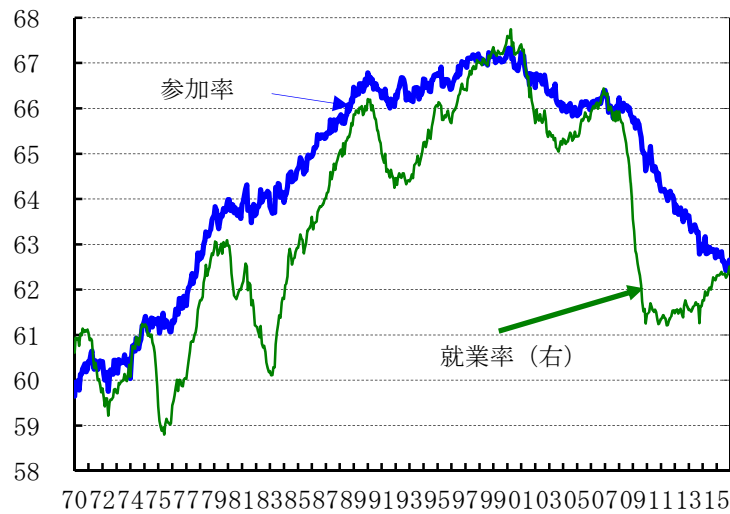
米雇用の質



(出所) 米労働省

(注) U6: 通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

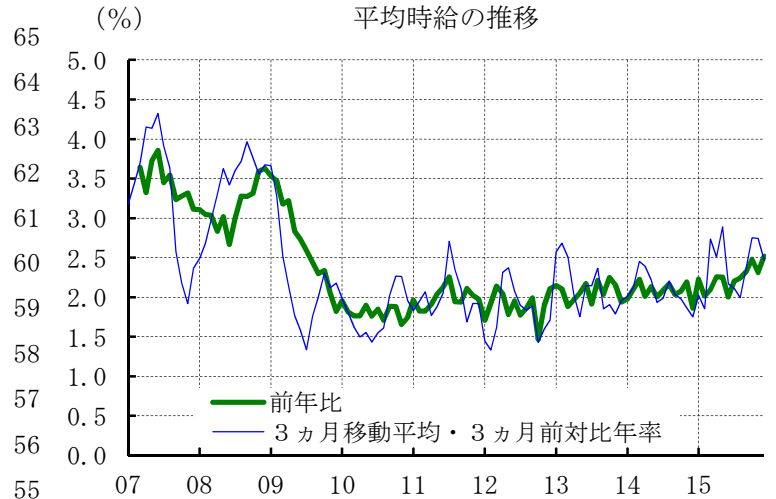
(%) (図表) 参加率と就業率の推移



(出所) 米労働省

(%)

平均時給の推移



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。